

SCIENTEX

市民ラジオ (免許・資格不要)

SCIENTEX RADIO SR-01 Rev. A

取扱説明書



株式会社サイエンテックス
第3版

目次

1. はじめに.....	2
2. 登録商標／著作権について.....	2
3. 付属品について.....	2
4. 電波法上のご注意.....	3
5. 安全にご使用頂くために.....	3
6. 各部の名称と機能の説明.....	7
7. 初めての通話.....	9
8. 各種機能の説明.....	14
8-1 電池電圧の確認方法.....	14
8-2 メーターのLED照明.....	14
8-3 ヘッドホンの使用.....	14
8-4 外部スピーカーの使用.....	14
8-5 外部電源の使用.....	15
8-6 逆スケルチ機能.....	16
8-7 電源電圧低下時の保護機能.....	17
8-8 受信フィルタの選択.....	17
8-9 ATT(受信アッテネータ)について.....	18
8-10 RIT (RECEIVE INCLEMENT TUNING) について.....	18
8-11 リセット操作について.....	18
9. 日常のお手入れと点検について.....	19
10. 仕様.....	20
11. 故障かなと思ったら.....	21
12. 製品保証について.....	23
13. 有償修理について.....	25
14. 免責事項 その他.....	27
15. 製造販売元 連絡先.....	27
修理お申込みフォーム.....	28

1. はじめに

この度は本製品をお買い上げいただきありがとうございました。
本製品は技術基準適合証明を取得した市民ラジオの無線設備です。
ご使用前に取り扱い説明書をよくお読みになり、正しくお使い下さい。
本機は日本国内専用の機種です。国外で使用することは出来ません。

2. 登録商標／著作権について

株式会社サイエンテックス、サイエンテックス、SCIENTEX は株式会社サイエンテックスの登録商標です。本書の内容の一部または全部を無断で複製、転用することは禁止されております。

3. 付属品について



梱包を開いた状態

出荷時標準付属品

品名	数量
ダイナミック型マイクロフォン PTT スイッチ付き	1 個
EIAJ-4 規格 本体に電源供給する DC プラグ 型番 MP-204	1 個
動作確認用 単 3 アルカリ乾電池	6 個 1 セット
取扱説明書	1 冊

4. 電波法上のご注意

◇本製品は電波法に基づいて特定無線設備として工事設計認証により技術基準適合証明を取得している製品です。無線機本体を簡単に分解出来ない構造になっております。ユーザー様ご自身で分解や修理、改造はしないで下さい。万が一、不具合が発生した場合は、製造元の弊社に修理を依頼して下さい。

◇本製品は無線設備規則に合致したアンテナを搭載しています。市民ラジオは、本体に付属のアンテナのみ使用が認められています。付属のアンテナに他のエレメントを増設したり、付属以外の外部アンテナを使用すると電波法違反で罰せられる場合がありますのでご注意下さい。

◇特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受してその存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用することは禁じられています。

◇他局の通信を妨害しないで下さい。

◇本製品は日本国内専用です。国外での運用は出来ませんのでご注意下さい。

5. 安全にご使用頂くために



安全にお使いいただくために必ずお読み下さい。

使用者と周囲の人への危害や財産の損害を防ぐために守るべき事項を記載しています。警告、注意の内容をよく理解してから本文をお読み下さい。

お読みになった後は本説明書をいつでも読める場所に保管して下さい。

安全上の注意事項

危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使用しています。

 警告	この表示を無視して誤った取扱いをすると、使用者及び周囲の人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性があることおよび物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。



警告

◇引火性ガスの発生する場所では絶対に使用しないで下さい。
引火、火災、爆発の原因になる危険があります。

◇車両の運転中に本製品を操作しないで下さい。安全な場所に車両を停止させてから、使用して下さい。



感電注意

すぐに避難



◇雷が鳴ったり、落雷の恐れがある場合は、すみやかにアンテナを収納し、電源を切り、運用を中止して安全な場所に避難して下さい。



接近禁止

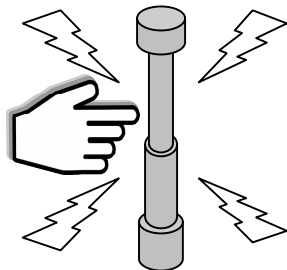


◇新幹線やその他鉄道の駅のホーム、送電線・配電線・その他架線の付近、その他高圧電気が存在する設備の近くでは、ロッドアンテナを伸ばすことは止めて、運用は避けて下さい。

特に、高圧電気のかかっている箇所には絶対にロッドアンテナを近づけないで下さい。直接接触しなくても、接近しただけで放電現象により重大な感電事故の恐れがあります。



接触禁止



◇送信中はアンテナに触れないで下さい。

感電や、やけどの恐れがあります。特に先端部分は高電圧になります。

◇医療機器（電子機器）の近くでは電源を OFF にして、絶対に送信しないで下さい。電波障害により医療用電子機器が誤動作、故障する恐れがあります。

◇病院、空港施設、港湾施設、業務用無線局の付近、その他電波の発射が規制されている場所若しくは電波障害が発生すると重大な影響の出る恐れのある場所では、原則として使用しないで下さい。やむを得ず使用したい場合は、これらの施設の管理者に問題ないか確認した上で運用して下さい。

◇航空機内、新幹線車両内、公共交通機関の優先席では電源を OFF にして下さい。

◇アンテナやマイク、その他接続ケーブルを持って持ち運び、振り回し、または投げたりしないで下さい。本人や周辺の人に当たってケガや故障の原因になります。

◇万が一、発熱している、煙が出る、異臭がするといった異常があった場合は、運用を中止し、すぐに電源を OFF にして、内蔵電池ボックスから電池を取り外して下さい。そのまま使用せず、弊社にお問い合わせ下さい。

◇製品の分解、改造は絶対にしないで下さい。またご自分で修理しないで下さい。



注意

◇強風がある場合は、アンテナを収納し、運用は控えて下さい。

◇本製品を不安定な場所に置かないで下さい。運用は、本製品が万が一転倒したり落下しても重大な事故の恐れがない安全な場所で行って下さい。

本製品が落下したり、倒れたりして、けが、故障の原因となる恐れがありません。

◇テレビやラジオ、他の無線局の近くで送信しないで下さい。本製品は、電波法で要求される電波の質を満たして出荷しておりますが、必ずしも電波障害を起こさないことを保証するものではありません。

◇寒い場所から暖かい場所へ急に本体を移動した場合は結露する場合があります。結露したときは電源を OFF にし、自然乾燥させて結露が無くなってからご使用下さい。

◇雨の中では使用しないで下さい。本製品は防滴や防水構造ではありません。

水や油、その他薬品類などの液体や粉塵、その他異物が本製品内に入らないようご注意ください。

◇磁気カードを無線機（特にスピーカー部分）に近づけないで下さい。
磁気カードの内容が消える場合があります。

◇乾電池を使用する場合は、新しい電池と古い電池を混在して使用しないで下さい。

古い電池が先に過放電して、過熱、液漏れする恐れがあります。

◇使用済みの乾電池は直ちに電池ボックスから取り外して下さい。液漏れの恐れがあります。

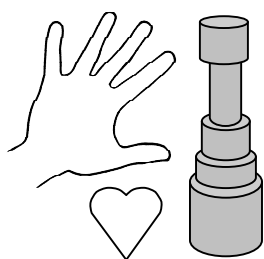
◇充電式電池を使用する場合は、6本全数を一度に交換し、全数を充電してから再利用して下さい。

◇外部電源を使用する際は、15Vを越える電圧は絶対に印加しないで下さい。
過電圧は、故障の原因となります。

◇弊社では、縦置き（銘板のある背面パネルを下にして本体を立てた状態）での使用は下記の理由により推奨しておりません。

・縦置きの状態から本体が倒れますと、倒れてきたアンテナにより周囲の人が負傷したり、本製品を破損する恐れがあります。

・縦置きの場合、アンテナは調整されたときの本来性能を発揮できず、送信・受信ともに、信号レベルが低下する場合がありますが、これは故障ではありません。



◇ロッドアンテナの伸縮はゆっくり丁寧に操作して下さい。
・ロッドアンテナを伸ばしきってリミット位置に達したら、必要以上に強い力で引っ張らないでください。
・本体とともに、ロッドアンテナも水に濡らさないで下さい。
万が一、アンテナに水滴がついた場合は、完全にふき取って乾燥させてください。

◇外部電源接続時、良品のEIAJ-4プラグを正しく使用し、プラグをしっかりと奥まで挿しているにもかかわらず、意図せず度々電源が断となった場合は、無線機本体のDCジャックが接触不良になっているおそれがあります。そのまま使用すると、異常動作や、無線機内部の故障の原因となりますので、使用を中止し、修理を依頼して下さい。

6. 各部の名称と機能の説明

前面パネル



- | | |
|--------------------------|----------------------------|
| ① バッテリ電圧確認ボタン | ⑦ RIT(受信周波数微調整)ダイヤル |
| ② ヘッドフォン専用端子 φ6.3mm モノラル | ⑧ チャンネル切替ダイヤル |
| ③ 付属ダイナミックマイク端子 | ⑨ 受信 ATT スイッチ (ON 時 -12dB) |
| ④ 大型アナログメーター | ⑩ 電源スイッチ |
| ⑤ LED チャンネル表示 アンバー色 | ⑪ 受信音量ダイヤル |
| ⑥ 送信(赤)／受信(緑) LED インジケータ | ⑫ 受信音声帯域幅切り替えスイッチ |

背面パネル



- | |
|---------------------------------|
| ⑬ 外部スピーカー端子 φ3.5mm モノラル |
| ⑭ 外部電源接続端子 EIAJ-4 極性統一型 センタープラス |

アナログメーター

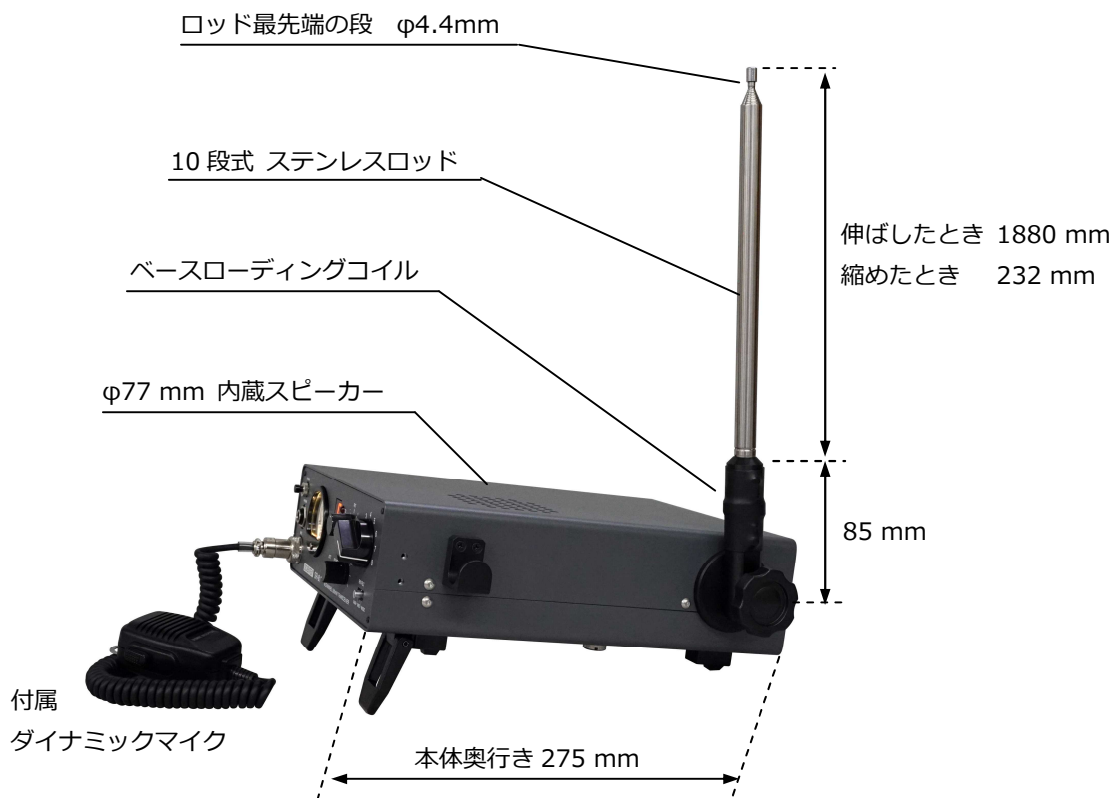
1個のメーターで、3種類の機能を備えています。



メーター部分の外観

受信 中	上段 目盛	Sメーター(受信信号 強度)表示
送信 中	中段 目盛	変調レベル表示 変調度が100%に達 するとALC動作領 域になります
CHECK ボタン 押下中	下段 目盛	電源電圧表示 外部電源接続時10V 以上は振り切れま すが、リミッターを 内蔵しメーターが 傷む心配はありま せん

本体側面

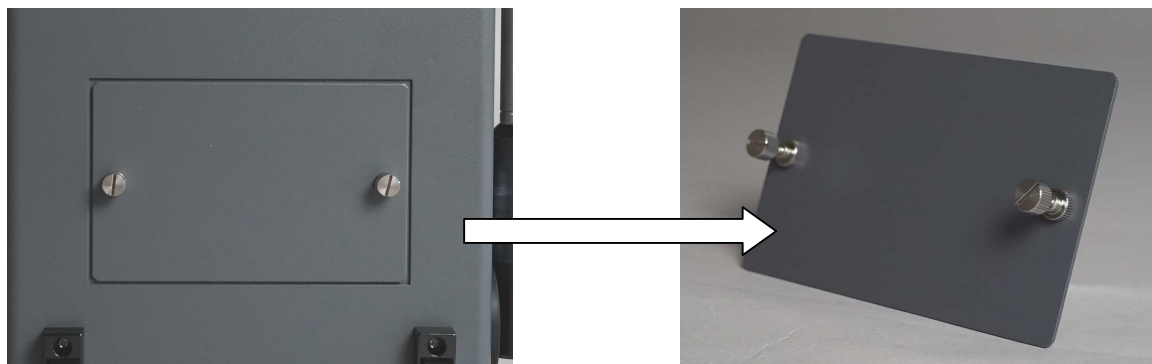


7. 初めての通話

下記の手順で運用を開始して下さい。

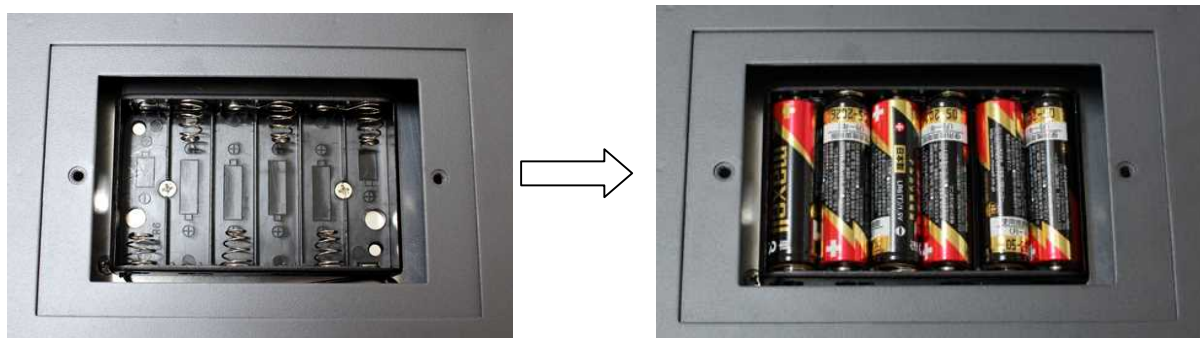
7-1 電池を入れる

本体を裏返しにしてネジをゆるめて、フタを外す



付属の電池6本を極性に注意して入れる。

電池を入れて蓋を閉める。



市販ニッケル水素電池を推奨

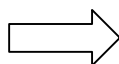
出荷時に同梱のアルカリ乾電池は、短時間の動作確認用です。

通常の運用には、市販の単3ニッケル水素電池を推奨致します。

別途、市販品のニッケル水素電池と、それに適合する充電器をご用意下さい。

弊社では、Panasonic 製 eneloop (白色ラベル)にて動作を確認しています。

7-2 マイクコネクタを接続する



マイクプラグの溝を上にして
合わせてからゆっくりと挿入
する。

外周リングのネジを締めて下
さい。

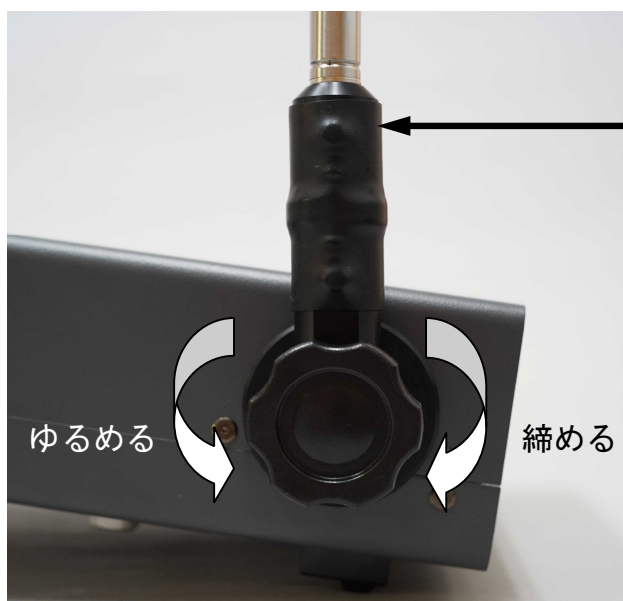
注意

弊社では、純正の付属ハンドマイクロホン以外での正常動作は保証しておりません。

7-3 アンテナを立てて伸ばす

最大の性能を発揮させるためには、アンテナは出来るだけ本体に対して垂直に立てて使用して下さい。

アンテナの角度調整について



アンテナを動かす際は
この付近を掴むこと

◇アンテナの角度を変更する際は、根元の黒い部分を掴んで下さい。

ロッドアンテナの途中や先端部分を掴んで動かすと、アンテナが曲がる恐れがあります。

◇アンテナ角度調整機構について

傾き角度の変化に対して、常に一定の抑える力（トルク）がかかっています。アンテナ根元のノブを時計方向に廻すと、抑える力が強くなります。逆に、半時計方向に廻すと、抑える力が弱くなります。アンテナが勝手に倒れないよう、適度な力に調整して下さい。

◇角度調整は 90°

ノブは、時計方向／半時計方向ともに、一定の範囲以上は廻らない構造になっています。ノブの回転が止まったら、それ以上は無理な力で廻さないで下さい。

アンテナ根元のノブは、一旦調整すれば、アンテナの展開・撤収の度に毎回操作する必要はありません。

7-4 電源投入

VOLUME ツマミを左に廻しきり、最小のポジションにして下さい。
POWER ON にすると LED のチャンネル表示（アンバー色）と受信中（緑色）を示す LED インジケータが点灯します。またスピーカーから音が出ます。

電池電圧の確認

CHECK ボタンを押すと電池の電圧が確認出来ます。

新品のアルカリ電池の場合は 9 V 前後、満充電された充電式ニッケル水素電池の場合は約 8 V 程度です。

電池が消耗し、アルカリ電池の場合で概ね 7. 8V 以下

充電式ニッケル水素電池の場合で概ね 6. 6 V 付近以下になったときは、電池交換の目安です。



7-5 最初の動作設定

最初に使用する時は各スイッチの設定は下記のようにして下さい。

- 1) RIT(受信周波数微調整)ダイヤルはセンター位置（クリック点）
- 2) CH 選択は任意
- 3) ATT スイッチは OFF
- 4) VOLUME つまみを聞きやすい音量に調整
- 5) RX FILT は MID

7-6 使用するチャンネルに切り替える

チャンネル切替ダイヤルで周波数を切換え、相手局の周波数に合わせて下さい。
混信やノイズがある場合はチャンネルを切り替えて使用して下さい。

7-7 送信する

送信の前には必ずしばらく受信して、運用するチャンネルに受信信号が無い（他局が送信していない）ときに送信して下さい。他の方が送信中に同じチャンネルで妨害することは避けて下さい。

マイクについている送信ボタン（PTT ボタン）を押すと送信状態になります。
送信中はTXLED が点灯します。

この状態でマイクロホンに向かって通常の声の大きさと話して下さい。

マイクと口との距離は5 cm程度が目安です。



警告

送信中はアンテナに触れないで下さい。

感電ややけどの恐れがあります。特に先端部分は高電圧になります。

7-8 受信へ復帰する

マイク付属の送信ボタン（PTT ボタン）を離すと受信状態になります。

7-9 電源を切る

POWER スイッチを OFF にして下さい。電源が切れ、LED の表示が消えます。

8. 各種機能の説明

8-1 電池電圧の確認方法

電池電圧を調べるにはチェックボタンを押すと、メーター下部の目盛りに対応して針が振れ、現在の電圧が表示されます。



8-2 メーターのLED照明

メーターのLED照明を点灯させるときは、CHECK ボタンをダブルクリック（続けて2回押す）して下さい。

再度ダブルクリックすると消灯します。

なお、電源投入直後は、毎回、メーター照明は消灯の状態となります。

8-3 ヘッドホンの使用

PHONE 端子にφ6.3mm モノラルのヘッドホンプラグを接続してご使用下さい。

8-4 外部スピーカーの使用

背面パネルのスピーカー端子にφ3.5mm モノラルプラグの市販外部スピーカーを接続して下さい。

(注意)ヘッドホンや外部スピーカーのコードの長さは2m以内にして下さい。

ご参考 無線設備規則（市民ラジオの無線局の無線設備）

第五十四条の二 四 外部送話器及び外部受話器の接続線は、二メートルを越えないものであること。

8-5 外部電源の使用



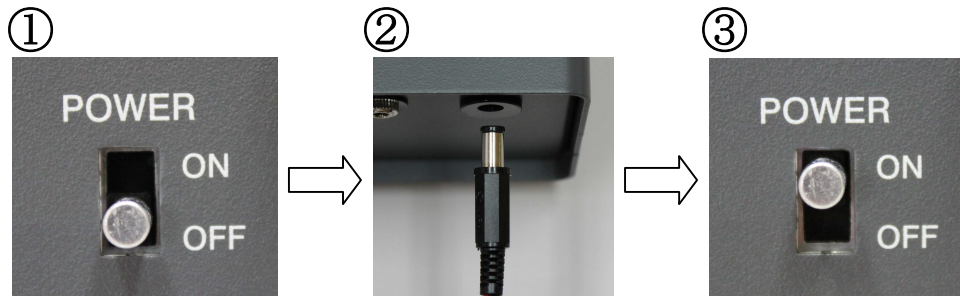
注意

DC 15V を超える電圧は絶対にかけないで下さい。故障の原因となります。



注意

外部電源を使用する際には、必ず以下を確認して下さい。



***外部電源プラグを抜き差しする際は、**

- ①一旦、POWER スイッチを OFF にしてから、
- ②コネクタを着脱して、
- ③その後、再度 POWER スイッチを ON にしてご使用下さい。

配線の極性は、センター端子を+側として下さい。万が一、逆の極性で接続されますと、本体の保護機能により、電源スイッチを操作しても電源は入りません。

付属の EIAJ-4 型 DC プラグ(型番 MP-204)または同等品を利用して、お手持ちの外部電源と接続して下さい。接続に必要な電線は別途ご用意下さい。

電流容量については **500mA 以上の供給能力があり、電圧が安定な電源**を使用して下さい。

無線機向けに市販されているシリースレギュレーター方式(ドロップ方式)の安定化電源の場合で、電圧が可変のものであれば、9.0V 付近の設定を推奨します。

古くからある、安価な電圧非安定化タイプの AC アダプタは、故障の原因となりますので使用しないで下さい。(これらは、消費電流が少ないとき、銘板表記の電圧よりも高い電圧が出力されています。)

また、スイッチング方式の AC アダプタは、一般にノイズ多く、受信に支障が出る可能性がありますので、本製品にはおすすりできません。

屋外運用時 推奨の外部電源

市販の Ni-MH(ニッケル水素) 充電式電池 8 本を直列接続

公称電圧 $1.2V \times 8 \text{ 個} = 9.6V$

※電圧を上げてても、出力は変わりません。

— ご参考 —

本装置の定格範囲は、入力電圧 6.0V~15V ですが、9V 付近の電圧をおすすりするのは、次の理由からです。

その① SR-01 は、受信中はドロップ式シリーズレギュレータ、送信中は DC/DC コンバーターにより、内部で一定の電圧を作り動作しています。受信中はドロップ式の動作のため、電圧が余計に高い分は、エネルギーを熱として廃棄され、無駄になります。(電源電圧を上げたとしても、送信パワーや変調度は全く変化しません。)

その② 運用の途中、特に電池の公称電圧から放電の終わりにかけて、本体内蔵のメーターで電圧をチェックできる範囲を推奨します。(公称 9.6V でも、満充電直後は、10V を越えてメーターが振り切れる場合があります。なお、振り切れても、メーター電流は制限されているので、メーター破損の心配はありません。)

元々定格電圧の高い(12V 等)のバッテリーでは、内蔵メーターで監視できる 10V 以内の範囲になるまで気付かずに放電すると、過放電となり、充電してもバッテリーが再利用不能になるおそれがあります。

その③ 電圧の下限側に関しては、最大電流時にコネクタ接続箇所や途中の配線での電圧降下も配慮すると、外部電源の電圧は 6.5V 以上を推奨致します。

8-6 逆スケルチ機能

すぐ近くで別の局が送信した場合、ハウリングが起きたり、非常に大きな音が出たり、歪んだ音が出て聞き苦しくなります。このようなとき、一定以上の強い信号があると自動的に受信音声をミュートする機能です。

逆スケルチを有効にするには、

CHECK ボタンを押したままの状態でマイクの PTT を押して下さい。

(なお、この操作では、送信にはなりません。)

逆スケルチが有効のときは、7セグメントLEDの数字の右下にドット“.”が点灯します。また、逆スケルチが作動してミュートされている状態の時はドット“.”が点滅します。

もう一度、CHECK ボタンを押しながらマイクのPTTを押すと、逆スケルチは解除されます。なお、電源を投入した直後は、毎回逆スケルチは無効の状態です。

8-7 電源電圧低下時の保護機能

本装置は、電池が消耗したり、外部電源利用時に異常が発生した場合など、電源電圧が定格範囲を下回ったことを検知すると、下記の保護機能が働き、予期せぬ異常動作を回避します。これらの表示が出ても、本体の故障ではありません。

(1)送信時（PTT スイッチを押している間）に、電圧が不足すると、通常チャンネルを表示している LED インジケータに“—”と表示され、自動的に送信を停止し、TX(赤色)LEDが消灯します。このときは、PTT スイッチを離すと、通常受信動作に復帰します。この段階では、電池の状態にもよりますが、通常、受信のみの動作は可能です。

(2)さらに電池の消耗が進んで、受信も正常に出来ない状態まで電圧が低下すると、チャンネル表示の LED インジケータに“L”の表示が出ます。

この時は、RX(緑色)LEDは消灯し、受信音声は聞こえない状態になります。

電池の消耗状態によっては、受信から送信に移った際などに、一度に急激に電圧が降下する場合もあり、“—”表示が現れることなく突然“L”表示になる場合もありますが、故障ではありません。このような場合は新しい電池に交換して下さい。

8-8 受信フィルタの選択

通常はMIDを推奨します。

WIDE：受信の帯域を広くします。音声は原音に近くなりますがバックグラウンドノイズも増加します。

NAR：受信の帯域を狭くします。ややこもった音質になりますが、バックグラウンドノイズは減少します。

RX FILT スイッチの設定	受信音声帯域幅
WIDE	3.0 kHz
MID	2.0 kHz
NAR	1.8 kHz

8-9 ATT(受信アッテネータ)について

通常は OFF にして下さい。

ATT スイッチを ON にしたときは、受信信号を 12dB 減衰させます。受信しているチャンネルもしくは近傍の周波数に特に強い信号が存在する場合は、ATT を ON にすると受信状況を改善できる場合があります。

8-10 RIT (Receive Inclement Tuning) について

通常は必ずセンターのクリック点に合わせて下さい。

必要に応じて、受信時の周波数のみを微調整します。微調整の範囲は約±3kHz です。使用後は毎回必ずセンターに戻して下さい。

・本製品は、DSP による極めてカット特性の急峻なフィルタを搭載しています。何らかの事情で相手側の送信周波数が偏移し、こちらのフィルタの帯域外にかかりますと、満足に受信できないおそれがあります。この対策として、受信側にて最適な周波数に微調整するための機能です。

8-11 リセット操作について

本製品の動作を工場出荷時の状態に戻す方法です。

通常は、この操作が必要になることはありません。

強い電磁障害その他の要因で、万が一、意図しない動作になっている場合は以下の手順でリセット操作を行って下さい。

- 1) 電源を OFF にします。
 - 2) CHECK 押しボタンを押したままの状態です電源オンにします。
 - 3) 起動時にブープ音が鳴ります。
- 以上でリセット完了です。

9. 日常のお手入れと点検について

液漏れを避けるため、使用済みの乾電池はすみやかに電池ボックスから取り除いて下さい。

また、本製品を長期間使用しない場合は、内蔵電池ボックスから電池を取り外して保管して下さい。

汚れをふき取る時は乾燥した柔らかい布を使用し、汚れのひどい時は水で薄めた中性洗剤を少し含ませて拭いて下さい。

アルコールに対しては、ある程度の耐久性がありますが、なるべく避けて下さい。

それ以外のシンナーやベンジンなどの有機溶剤は絶対に使用しないで下さい。

10. 仕様

対応規格	平成 17 年 12 月 1 日改正 無線設備規則 別表第 3 号 スプリアス発射又は不要輻射の強度の許容値	
周波数	26.968 MHz , 26.976 MHz , 27.040 MHz , 27.080 MHz 27.088 MHz , 27.112 MHz , 27.120 MHz , 27.144 MHz	
アンテナ	10 段 ステンレス製 ロッドアンテナ ロッド部+ローディングコイル部 合計長さ 1965 mm (Typical)	
本体外形	W 197 × H72 × D275 mm ダイヤル、アンテナ等突起物を除く	
送受信切替方法	ハンドマイク側 PTT ボタン押下時に送信 (単信方式)	
電源	市販 単 3 型 Ni-MH 二次電池 × 6 本 内蔵を推奨 ※Ni-MH 使用時、充電は別途市販の充電器をご利用下さい 単 3 型アルカリ乾電池 × 6 本 も使用可 外部電源接続端子 EIAJ-4 センター+ 動作電圧範囲 6.0 V ~ 15.0 V ※外部電源には 9.6V を推奨	
消費電流	電源電圧 9V 時 受信時 音量最小時 約 120 mA 送信時 無変調時 約 300 mA 送信時 ALC 動作域まで変調時 約 400mA 前後	受信中はスピーカーの音量、送信中は変調音声の強度により、電流は大きく変動しますので、左記の値はあくまで目安となります。 アンテナの整合状態が悪い場合は送信中の電流が増加する場合があります。
発振方式	基準源発振：水晶発振 超低位相雑音・超高分解能 フラクショナル N 型 PLL 搭載	
変調方式	振幅変調 (A3E) / 終段ドレイン変調	
空中線電力	無変調時搬送波出力 0.5 W	
RIT 可変範囲	± 3 kHz (受信時のみ)	
内蔵スピーカー	ダイナミックスピーカー φ77mm (3 inch) 最大出力 SPL 89dB	
受信感度	-113 dBm (EMF 0dBuV) テスト信号の変調度 30% , 復調 S/N 10dB	
逆スケルチスレッシュヨ ルドレベル	約 -43 dBm (S9+30dB 付近) 工場出荷時固定	
重量	約 2.5 kg (電池, オプション品キャリングベルト 除く)	
製造地	日本国	

1 1. 故障かなと思ったら

修理を依頼される前に、下記の内容をよくご確認ください。

トラブルシューティング一覧表 (1/2)

現象	原因	処置 ・ 対策
電源が入らない	電池が内蔵電池ボックスから外れている	電池が正しく電池ボックスに収まっているか確認する
	電池の挿入方向を間違えている	電池の極性を確認する
	端子の接触不良	電池ボックスの金属端子を清掃する
	電池の消耗	新しい電池に交換する
送信が出来ない LED に “-” の表示が出る	電池の消耗	新しい電池に交換する
受信が出来ない LED に “L” の表示が出る	電池の消耗	CHECK ボタンで電圧確認 新しい電池に交換する
受信時のノイズが多い	運転中のガソリンエンジン、高圧送電線、太陽光発電設備、インバーター搭載機器等、周辺で発生した外来のノイズが大きい	周囲にノイズ源が無いか確認する 場所を変え、それらのノイズ源から離れる
	外部電源としてスイッチング方式の AC アダプタ等を使用していて、電源ラインからノイズが混入している	シリーズレギュレータ（ドロップ）方式の安定化電源か、バッテリー等、低ノイズな電源を使用する

トラブルシューティング一覧表 (2/2)

現象	原因	処置 ・ 対策
スピーカーやヘッドホンから音が聞こえない	音量 (VOLUME) が最小になっている	音量 (VOLUME) ダイアルを調整する
	外部スピーカーや外部ヘッドホンのプラグが中途半端に挿入されている	プラグを完全に接続する
	外部スピーカーや外部ヘッドホンのケーブルが断線している	一旦、外部スピーカーやヘッドホンを取り外し、内部スピーカーから音声がでるか点検する
この説明書と異なり、意図しない動作をする	強い電磁障害または他の要因で内部の設定記憶が予期せぬ状態となっている	リセット動作を行い、工場出荷状態に戻す ①電源をオフにする ②CHECK ボタンを押した状態で電源をオンにする
強力な妨害電波があるようだが、目的のチャンネルの受信音声が歪んだり、一時的に途切れて無音になったりする	RF 初段の LC フィルタで除去できない 27MHz 近傍の周波数に、極めて強い信号が存在し、受信入力レベルが概ね 90dBuV (EMF), -23dBm 程度を超えると、受信ミキサーの飽和により左記の現象が発生する	時間または場所を変えて、再度受信を試す ATT を ON にすると、多少改善される場合もあります

1 2. 製品保証について

保証期間内に、保証の対象となる故障について、無償にて修理致します。

大変お手数ですが、修理品をお送りいただく前に、次の 2 点の確認をお願い致します。

- 1) 事前に製造番号(シリアルナンバー)と具体的な不具合の症状を弊社にご連絡下さい。
- 2) 本説明書の末尾の「修理お申込みフォーム」をコピーまたは切り取って必要事項を記載いただいたものか、または、同じ内容を記載したメモを、修理品に添付して下さい。

◇製品保証期間 製品の弊社発送日より起算して1年間
ただしアンテナについては製品発送日より6ヶ月と致します

◇保証書について

出荷時に、保証書を同梱致しますので、大切に保管して下さい。

保証期間内に修理品をお送りいただく際は、保証書を添付して下さい。

◇封印ラベルについて

本体側面に貼られた“WARRANTY VOID”のラベルを剥がされたり、破損されま
すと、保証期間内であっても、製品保証は無効とさせていただきます。

弊社以外での分解、改造、修理は行わないで下さい。

◇保証の対象

保証期間内に、正常なご使用のもとで弊社製造上の瑕疵により発生した故障に
限らせていただきます。

なお、

- ・本取扱説明書の記載に反した取り扱いを行った場合
- ・使用上の不注意が原因となった損傷
- ・弊社以外による修理や改造が加えられた場合
- ・落下・衝撃などの外部要因により、アンテナや筐体その他内部に
損傷を受けた場合
- ・地震、火災、落雷、洪水、輸送中の事故、その他、弊社の責任によらない
災害の被害

以上につきましては保証期間内であっても保証の対象外となりますのでご了承をお願いいたします。

◇保証による弊社対応の上限範囲

弊社の対応は、無償修理または代替品の納入までを限度とさせていただきます。なお本製品の故障により通信の機会を失ったため生じる滅失利益または第三者からの請求について当社は一切その責任を負いかねます。ご了承下さい。

◇往復の送料負担について

保証の対象となる無償修理の場合の往復送料は、原則弊社が負担致します。

保証期間内に、製品を弊社宛に送る際は着払いをご利用下さい。但し、この場合に、もしお客様が元払いで発送されますと、誠に恐れ入りますが、その時点でおお客様がすでに支払われた発送費用の返金はできませんのでご注意下さい。

保証による修理完了後、弊社から返送の際は元払いで発送致します。

なお、弊社にて現品を点検調査した結果、故障原因が弊社製造上の瑕疵ではなく、保証による無償修理の対象でないと判明した場合は、一旦弊社よりお客様へご連絡致しますので、有償修理による対応へ移行させていただくか、修理自体をキャンセルしてそのまま返却させていただくか、いずれかをご選択下さい。

有償修理に切替えた後の詳細は、「有償修理について」の項目をご参照下さい。修理自体をキャンセルされた場合は、弊社より着払いにて返送させていただきますので、返送料はお客様負担にてお願い致します。

◇弊社へ荷物を発送される場合のご注意

輸送中の破損を防止するため、できる限り、弊社出荷時の箱及び緩衝材を再利用して発送して下さい。

購入時の箱が無い場合は丈夫なダンボール箱を使用し、エアキャップなどで包み、製品をしっかりと固定して、破損することが無い様にして梱包して送り下さい。

弊社宛に輸送中の破損、故障については保証期間内であっても有償修理となり、修理料金をご負担いただきますのでご了承下さい。

13. 有償修理について

保証期間終了後または保証の対象外の故障について、修理により機能が維持出来る場合※は有償にて修理致します。

※弊社が修理をお引き受けできることを、必ずしもお約束するものではありません。特に、修理に必要な部品が、製造終了等により入手不可能となり、弊社の保有部品も使い切った場合は、修理をお引き受けできません。予めご理解のほど宜しくお願い申し上げます。

大変お手数ですが、修理品をお送りいただく前に、次の2点の確認をお願い致します。

- 1) 事前に、製造番号(シリアルナンバー)と具体的な不具合の症状を弊社にご連絡いただき、修理についてご相談下さい。
- 2) 本説明書の末尾の「修理お申込みフォーム」をコピーまたは切り取って必要事項を記載いただいたものか、または、同じ内容を記載したメモを、修理品に添付して下さい。

修理は出来るだけ早く行うよう努力致しますが、下記のような場合には多くの日数や多額額の修理費を要したり、修理出来ない場合がありますのでご了承下さい。

- ①ご購入されてから長期間を経過している場合
- ②補修部品が入手不可能の場合
- ③著しい損傷が認められる場合
- ④改造が加えられている場合
- ⑤弊社にて異常な現象が再現されない場合
- ⑥その他

◇点検・診断・修理の料金について

料金体系は下記のようになっております。

修理代金 = 点検診断初期基本料金 ¥9,000(税抜) + 内容別修理費用 + 消費税

修理代金は基本料金と個別修理費用の合計額となります。

＜ご注意＞

実機のお預かり後は、弊社が修理できないと判断した場合もしくは修理お見積りご連絡の結果お客様が修理をキャンセルされた場合でも基本料金が発生致します。

修理の有無に関わらず、点検・診断の段階で弊社技術者の時間・工数を要しますので、修理依頼品をお送りいただく前に、予めご理解のほど宜しくお願い致します。

◇修理代金のお支払い方法

修理代金のお支払い方法は、

返送前の銀行振込(弊社で入金確認後に修理品発送) または
返送時の宅急便代金引換え にて承ります。

◇有償修理の場合の送料負担について

保証期間終了後に、お客様から弊社にお送りいただく際は、原則として、**元払いにて**お願い致します。この場合、弊社からお客様へ元払いで返送致します。但し、お客様より弊社に着払いで発送された場合は、弊社からの返送時も着払いとさせていただきます。

14. 免責事項 その他

本製品の故障により通信の機会を失ったために生じた滅失利益または第三者からの請求について当社は一切その責任を負いかねます。

弊社発行のカタログ若しくは本取扱説明書に明記された製品の機能や品質に関する範囲を超えるご質問や苦情は、内容によりお受けできない場合がございます。

製品をご使用された感想は随時受け付け致しておりますが、弊社の商品企画の方向性、製品の設計開発や製造または販売の具体的方法、広告・広報活動の手段、その他弊社で決定する運営上の方針に関しましては、原則としてお客様からのご指示はお受けできません。これらの内容につきまして、お客様よりご参考意見をお寄せいただいた際に、弊社として何らかの回答や対応もしくは変更をお約束するものではございません。

本説明書に記載の外観や仕様は、改良のため予告無く変更する場合があります。以上、予めご了承下さい。

15. 製造販売元 連絡先

〒434-0033

静岡県浜松市浜北区西美蘭 1085-1

株式会社サイエンテックス

営業部 無線設備係

E-mail info-radio@scientex.co.jp

URL <http://www.scientex.co.jp>

TEL 053-589-5200

FAX 053-589-5266

営業時間 平日 月～金 9:00～12:00 / 13:00～18:00

弊社製品に関するお問い合わせ・ご意見は、極力、メールにてお送りいただきますよう、何卒、ご理解、ご協力のほど宜しくお願い致します。

修理お申込みフォーム

・修理依頼品をお送りいただく際のお願い

お手数ですが、このページをコピーまたは切り取って空欄にご記入いただいたものか、あるいは、A4 か B5 サイズの任意の用紙に同じ内容を記載したメモを、修理品に同梱して下さい。

製品機種	SR-01 Rev. A	
製造番号	(※本体背面の銘板に印字された4桁の製造番号を記入して下さい。)	
修理後の返送先 ※修理後は、こちらにご記入の宛先にて、宅配便で返送致します。	住所	〒 -
	フリガナ お名前	
	TEL	() -
ご連絡先 ※こちらにご記入のご連絡先に、弊社より、修理のお見積りやその他確認のお伺いをご連絡致します。	フリガナ お名前	
	E-mail	
	TEL	
	FAX	
不具合の状況	<p>(どのような条件の時に、どのような操作を行って、どのような症状があるか、できる限り具体的に記載をお願い致します。)</p>	